

第3次 四国遍路トコトコ道中記 『結願編』

高鍋 学

昨年こぞの秋、第2次四国歩き遍路は、高知県内に16ある札所から愛媛県西予市の43番明石寺めいせきじまで参拝し、愛媛県大洲市へ進んで遍路を区切った。

今回の第3次は、2017年2月28日、大洲市から歩き始め、久万高原町44番大寶寺たいほうじを皮切りに愛媛県・香川県・徳島県の各札所の寺を巡り、88番大窪寺おおくぼじで「結願」した。その後、結願のお礼参りのため1番靈山寺りょうぜんじへ戻り、その足で和歌山に渡って3月18日高野山に結願の報告をし、約500km、19日間の遍路を終えた。



■第3次の遍路

お彼岸前の3月上旬は沈丁花が香って春めいてはいるが、まだ寒い日も多く何を着ていくか迷った。結局、シャツと薄いダウンのチョッキやポリエステルのパーカーなど、薄いものを重ね着することにした。寒い時は7枚重ね着し、暑い時はパーカーやチョッキを脱ぐなどして、細かい温度調節に便利だった。寒かったのは、久万高原での強風とみぞれ、高い山にある66番雲辺寺うんべんじの残雪と冷え込み、平地でも瀬戸内海を渡ってきた強い寒風など、何十年か振りに耳に霜焼けができた。

第1次の徳島県の遍路道は山と川の魅力であり、第2次の高知県や愛媛県南部の遍路道は海の魅力であり、第3次の愛媛県久万高原町から香川県にかけての遍路道は山の魅力に満ちたコースだった。

瀬戸内側は高い山にある寺が多く、八十八ヶ所中で一番高い66番雲辺寺うんべんじは標高910m。二番目に高い60番横峯寺よこみねじ745m。久万高原町にある44番大寶寺や45番岩屋寺などがそれに続いている。勿論、山は低くても急坂の厳しい峠道もあるが、高い山は登山と同じだ。自然に囲まれて落ち葉のジュウタンを踏みしめながら歩く山の遍路道や景色は素晴らしい。

そんな中、今回の遍路で大きな出来事といえば膝を痛めたこと。



<66番雲辺寺>

出発して3日目、風雨の中を久万高原から松山へ向かう三坂峠の下りで右膝を痛めてしまった。何日かすると、かばい足で左膝も痛くなった。特に下り坂で痛い。膝を痛めた翌日は14kmの短い距離だったが、3日目は松山の道後から今治市菊間町まで33kmの長い道のり。トボトボとしか歩けないので歩数は64,000歩、12時間余りもかかってしまった。遅ればせながら湿布薬と鎮痛剤を買い、その後、お寺の隅に置いてあった金剛杖を1本貰い受けて2本にし、リタイアの危

機を乗り切ることができた。この2本がなければ険しい横峰寺や、雲辺寺の急で雪の積もった長い下り坂は無理だった。

足のトラブルはこれで2回目だ。7年前の東京日本橋から日光街道を歩いた際、靴が合わずに両足の指が腫れあがった。この時は靴をサンダルに履き替えて乗り切ったが、東照宮まで5日間の予定が8日間かかった。

松山から今治市菊間町までの33kmを12時間余りかかった日とは反対に、旅の終盤、88番大窪寺から1番霊山寺までの40kmは9時間半で歩き、17時の納経に間に合った。1日に40km歩いたこ



<81番白峯寺に登る途中>

とも、こんな短い時間で歩けたことも初めてだ。天気は穏やかで膝もかなり回復し、出発から緩やかな下り坂が18kmも続いたのが追い風になったのだろう。

高野山へはフェリーと南海電車で九度山^{くどやま}まで行き、九度山からは町石道^{ちやういしみち}といわれる表参道を上って奥の院に結願の報告をした。町石道^{ちやういしみち}の名前の由来は、麓の慈尊院から高野山へ通じる180町の参道の1町(109m)ごとに、石造りの五輪塔形の町石が建てられていることからきている。距離が長く素晴らしい道だった。

■歩き遍路を支えているもの

(1) 道しるべとお接待

四国歩き遍路が比較的容易にできるのは、「へんろみち保存協力会編の地図」と「道しるべ」のお陰だ。道しるべは石柱^{しる}に標した物、札に支柱をつけた物、電柱や道路標識の支柱やガードレールに張られたシール、木の枝などに吊してある札などがあり、これらを辿っていけば地図なしでも八十八ヶ所を回れるほどだ。逆にこれを見失うと厄介なので、いつも注意して見ながら歩いている。道しるべは遍路一周1,116kmに、石や支柱が約2,000本、シールが約7,000枚あり、現在「へんろみち保存協力会」が管理している。



この協力会は88番大窪寺^{おおくぼじ}の山の麓に「前山おへんろ交流サロン」を建て、歩き遍路で結願した人や、これから88番に向かう遍路に、「四国八十八ヶ所遍路大使任命書」を発行している。毎年7月から順番に番号を付け、私は1356番だった。発行数を聞くと、一昨年(2015年)は高野山開創1200年記念で人数が多く3,500人。昨年は2,500人とのこと。貰っていない人もいるので、年間の歩き遍路は3,000人くらいだろうか。

道しるべと共に忘れてはならないのは、親切に道を教えてくれる土地の人達だ。こちらが遍路姿なので、間違った方向に行っていると、向こうから道を教えてくれることもよくある。

また、遍路にとってありがたい接待所や休憩所は、多く地域の人たちのボランティアで運営されている。中には個人で道しるべを作ったり、接待所や休憩所を提供している人もいる。先回は高知県四万十町の石坂さん宅の接待所でお世話になり、今回も高松市の立派な「飯尾お遍路休憩所」で、暖かいコーヒーと飴と梅干しを頂き、きれいなトイレもお借りした。

たくさんのお接待の中にこんな事もあった。険しい山にある60番横峰寺を下ってきた時、宿が

一緒だったおぼさんがもう一歩も動けなくなっていた。タクシーを呼んでも場所が分からない、
とって来ないらしい。近くにあった採石場の事務所でこの位置を尋ねていると、状況を察知
した社長さんらしい人が、何も言わずにおぼさんを遠い宿まで車で送って行ってくれた。

(2) 遍路宿と宿坊

札所のお寺の近くには遍路相手の民宿があり、
通称「遍路宿」と呼ばれている。野宿は別とし
てこの宿がないと遍路は難しい。近年は経営者
の高齢化と利用客の減少で数は減っているとい
う。高松市の 80 番國分寺横にある「えびすや
旅館」では、「昭和の 30 年～40 年代この地区に
20 軒ほどの宿があったが、今はここ 1 軒だけにな
ってしまった。子供の頃、学校から帰ると直
ぐ隣の國分寺へ客引きに行かされ、連れて帰っ
てくると 5 円もらえた。」と語っていた。



<落葉のジュウタン>

そうした中、繁盛している遍路宿もある。今回の旅の中では、創業 100 年の老舗遍路宿松山市
「長珍屋」。建物を新築した西条市「旅館小松」。三好市「民宿岡田」などで、どの宿も大きな山
や峠の麓にある。66 番雲辺寺に上るには「民宿岡田」が足場によく、他に近くに宿がないことも
あって早めに予約しないと直ぐ満室になる。

遍路宿ではみんな一緒に食事をするので、宿の主人やおかみさんも加わって遍路の話題に花が
咲き、友人もできる。これが他の旅と一番違うところだろう。

こうした遍路宿とは別に、貸切バスの団体客を受け入れているのは宿坊だ。宿坊のよさは朝の
お勤めがあること。今回、宿坊は 58 番仙遊寺と弘法大師生誕地の 75 番善通寺に泊まって、朝 6
時の読経と住職の法話を聞いた。善通寺の読経は 7 重唱、仙遊寺は 4 重唱でどちらもよかった。
仙遊寺住職の話は、亡くなった奥さんのことなど興味深い内容だった。

他に、安くまたは無料の宿泊施設として善根宿やお寺の通夜堂などもある。もう少し若ければ
利用したと思うけれど、残念ながらもうそんな気力はない。

■雑感

・山の遍路道を行くと、下草刈りや間伐など、
手入れの行き届いた植林の森を多く見かけた。
水田のような整然とした美しさがある。長い年
月と地道な作業を必要とする林業は農業に比べ
て話題になることは少ないが、これから百年二
百年と上手く続いてほしいと思う。



<間伐された杉林>

・これまで続けていた納札（納経した証に納
める名刺のようなもの。般若心経を写経したも
のを納める「経を納める」のが正式とされてい
るが、読経したのち自分の名前を書いた納札を納めてもよい。）を今回は途中で面倒になって止め
て、納経の証は納経帳に御朱印をいただくことだけにした。遍路の決まりや手順をどこまで守る

かは、人それぞれだろう。

・お寺や神社には寄付した人の掲示や石柱が必ずあり、金額によって序列や大きさが違う。金額の単位で時代を感じ、名前と金額の大小を眺めながら財力や人間関係を想像するのも面白い。ただ、キリスト教など他の宗教や国などで同じような物があるのかどうか知らないが、興味がある。

・高野山は歴史上有名人の墓が多い。会社の墓には驚くが、心に残る墓は無縁塚のピラミッドだ。



<高野山無縁塚>

■旅を終えて

「四国遍路は癖になる」とよく聞く。遍路宿などで皆さんに聞くと、何度も巡っている人が多い。これまでに旧五街道や全国縦断の歩き旅をしてきたが、四国遍路は特別だ。お寺、納経、遍路宿、宿坊、遍路道、海・山・谷・川など変化に富んだ自然、お接待、人情、出会い、など多くの魅力が詰まっている。どうも癖になりそうだ。



<高野山大門前にて>

高野山から家に戻ると、妻から「ご苦労さまでした」と何時にない言葉をかけられた。優しい言葉にホッとしていると、数日後、見慣れないバッグを提げている。また何時もの「お留守番のご褒美」ですか、と聞くと「結願のお祝いに」という。理由は何でもよいらしい。